



Sun Fire™ V20z および Sun Fire V40z サーバー

ご使用にあたって

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 819-2913-17
2006 年 10 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

AMD、Opteron、HyperTransport、PowerNow! は、Advanced Micro Devices, Inc の商標です。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、AnswerBook2、docs.sun.com、Java、Sun Fire は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers—Release Notes Part No: 819-1771-21 Revision A
-----	---



目次

はじめに ix

- 1. ハードウェアおよびファームウェアに関する情報と問題 1-1
 - 1.1 サーバーのバージョン 1-1
 - 1.2 Sun Fire V20z サーバーおよび Sun Fire V40z サーバーの注意事項 1-3
 - 1.2.1 使用している OS での PowerNow! の構成 1-3
 - 1.2.1.1 Solaris での PowerNow! 1-4
 - 1.2.1.2 Linux での PowerNow! 1-4
 - 1.2.1.3 Red Hat Enterprise Linux 4 1-4
 - 1.2.1.4 SuSE Linux Enterprise Server 9 1-4
 - 1.2.2 センサーファンの警告 1-6
 - 1.2.3 LSI オプションのデフォルトとスワップドライブの自動再構築 1-6
 - 1.2.4 4 機能 PCI-X オプションカード 1-7
 - 1.2.4.1 Sun Fire V40z サーバー 1-7
 - 1.2.4.2 Sun Fire V20z サーバー 1-7
 - 1.2.5 9600 ボーを超える速度でのシリアルコンセントレータの障害 1-8
 - 回避方法 1-9
 - 1.2.6 Intel デュアルポート Ethernet PCI カード (Linux のみ) 1-9
 - 回避方法 1-10

- 1.2.7 Intel PCI ネットワークインタフェースカードでの Rx-ERR の可能性 (ポートツーポート接続のみ) 1-11
- 1.2.8 LSI U320 PCI カードの追加による無視できるエラーの発生 1-11
- 1.2.9 特定のドライブを使用する場合に外部アレイでサポートされない LSI U320 PCI カード 1-12
- 1.2.10 オンボード RAID のミラー化の同期時間 1-12
 - 1.2.10.1 同期時間の見積もり 1-12
 - 1.2.10.2 OS およびドライバがサーバーに読み込まれていない場合 1-13
 - 1.2.10.3 OS および LSI ドライバがサーバーに読み込まれている場合 1-13
- 1.2.11 SP プラットフォームの停止または電源の再投入コマンドに必要な -f 引数 1-13
- 1.2.12 PCI カードの追加による POST エラーメッセージ 1-14
 - 1.2.12.1 「Option ROM Scan」の使用不可への切り替えによる POST エラーメッセージの回避 1-14
 - 1.2.12.2 SCSI 制御カードから起動するためのオンボード NIC の「Option ROM Scan」の使用不可への切り替え 1-15
- 1.3 Sun Fire V20z サーバー固有の注意事項 1-15
 - 1.3.1 更新後の誤った BIOS バージョンの表示 1-16
 - 1.3.2 シリアルポートでの誤った割り込み 1-16
 - 1.3.2.1 Serial-over-LAN の使用 1-16
 - 1.3.2.2 Solaris の設定の変更および確認 1-17
 - 1.3.2.3 Solaris のデフォルト設定へのリセット 1-17
 - 1.3.2.4 Linux の設定の変更 1-18
- 1.4 Sun Fire V40z サーバー固有の注意事項 1-18
 - 1.4.1 4G バイト DIMM 1-18
 - 1.4.2 PCI/PCIX ホットプラグの有効化/無効化 (V40z のみ) 1-19
 - 1.4.2.1 PCI/PCIX ホットプラグ機能の有効化 1-19
 - 1.4.2.2 PCI/PCIX ホットプラグの有効化の確認 1-19
 - 1.4.3 Topspin Infiniband ホストチャネルアダプタ 1-20

- 1.4.4 PCI オプションカード: Sun Dual Gigabit Ethernet + Dual SCSI PCI
カード 1-20
 - 1.4.5 1 台の電源装置を切り離した際の SP イベントログメッセージ
1-20
2. ソフトウェアに関する情報と問題 2-1
- 2.1 Linux オペレーティングシステムに関する問題 2-1
 - 2.1.1 デュアルコアシステムでの SUSE のメモリー帯域幅のパフォーマンス 2-3
 - 2.1.2 特定の Linux ソフトウェアでの変換索引バッファ (TLB) の再読み込みによるエラー 2-3
 - 2.1.3 デュアルコアの Sun Fire V40z に failsafe モードの SLES 9 (64 ビット) がインストールされない 2-4
回避方法 2-4
 - 2.1.4 NSV 2.4.0.6 を備えた Sun Fire V40z (シャーシ 380-1010) への RHEL4 FCS (32 ビット) のインストールには HPET の使用不可への切り替えが必要 2-4
回避方法 2-4
 - 2.2 Solaris オペレーティングシステムに関する問題 2-5
 - 2.2.1 4G バイト DIMM が全ソケットに取り付けられているシステム上で GUI ベースの Solaris 10 1/06 OS のインストールが失敗する 2-6
 - 2.2.2 Solaris 9 OS での 32G バイトのメモリーの上限 2-6
 - 2.2.3 事前インストールされている Solaris 10 OS 2-7
 - 2.3 Sun Installation Assistant に関する問題 2-7
 - 2.3.1 Sun Installation Assistant CD-ROM 2-7
 - 2.3.2 Sun Installation Assistant によってサポートされる Linux のバージョン 2-8
 - 2.3.3 Sun Installation Assistant と LVM の併用 2-8
 - 2.3.4 プラットフォームドライバ 2-9
 - 2.3.5 LSI ドライバ 2-9
 - 2.3.6 フロッピーディスクへのアクセス中の OpenIPMI Linux カーネルドライバの衝突 2-9
 - 2.4 診断に関する問題 2-10

- 2.4.1 パケットの破損によって診断のダウンロードが失敗する可能性がある 2-10
 - 2.4.2 diags のファンテスト 2-11
 - 2.4.3 diags の SSH 接続および nic テスト 2-11
 - 2.4.4 ファームウェアのダウングレード 2-11
 - 2.4.5 sp snmp community コマンド 2-11
 - 2.4.5.1 sp set snmp community 2-12
 - 2.4.5.2 sp get snmp community 2-12
 - 2.4.5.3 inventory get software コマンドで誤ったインストール日付が返される 2-12
 - 2.4.6 診断読み込み中の SP へのアクセスの禁止 2-14
 - 2.4.7 diags terminate コマンドによる「誤った」重大イベントの生成 2-14
 - 回避方法 2-16
 - 2.4.8 その他の診断に関する問題 2-16
3. バージョン別の NSV (SP および BIOS) の変更点 3-1
- 3.1 NSV Release 2.4.0.12 3-1
 - 3.1.1 新機能 3-1
 - 3.1.2 解決された問題 3-2
 - 3.2 NSV Release 2.4.0.8 3-3
 - 3.2.1 新機能 3-3
 - 3.2.2 解決された問題 3-3
 - 3.3 NSV Release 2.4.0.6 3-4
 - 3.3.1 NSV 2.4.0.6 の機能 3-4
 - 3.3.2 NSV 2.4.0.6 で解決された問題 3-5
 - 3.3.3 NSV 2.4.0.6 の既知の問題 3-6
 - 3.3.3.1 HPET タイマーをオフにするとシステムクロックのずれが生じる 3-6
 - 3.3.3.2 システムファームウェア進捗 SEL エントリに関して BIOS で誤ったセンサー番号が使用される 3-6

- 3.3.3.3 BIOS の更新の失敗 3-7
- 3.4 NSV Release 2.3.0.11c および 2.3.0.11 3-7
 - 3.4.1 NSV 2.3.0.11c の既知の問題 3-7
 - 3.4.1.1 tduilog コマンドが CPU レジスタのログファイルを生成しない 3-7
 - 3.4.1.2 システムが NSV のマウントを解除しない 3-7
 - 3.4.2 NSV 2.3.0.11 で解決された問題 3-8
 - 3.4.3 NSV 2.3.0.11 の既知の問題 3-10
 - 3.4.3.1 BIOS の更新が失敗する 3-10
 - 3.4.3.2 操作パネルと PPCBoot の更新は不要 3-10
 - 3.4.3.3 キーボードが取り付けられていないシステムに対して BIOS でキーボードエラーが記録される 3-10
- 4. マニュアルに関する問題 4-1
 - 4.1 SP および BIOS の更新手順 4-1
 - 4.2 設定作業用のポスター 4-1
 - 4.2.1 ケーブル 4-1
 - 4.2.2 CD-ROM 4-2
 - 4.2.2.1 Sun Fire V20z サーバー 4-2
 - 4.2.2.2 Sun Fire V40z サーバー 4-3
 - 4.3 マニュアル 4-3

はじめに

本書では、Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバーに関して、安全性に関する重要なガイドラインのほかに、機能、既知の問題、回避方法などの新しい情報の概要を説明します。また、本書には、サーバーのハードウェアおよびソフトウェアに対する過去の更新に関する情報も記載されています。

安全性に関するガイドライン

Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバーは、IT 電源システムに安全に接続できます。



製品上で使用されている黄色の背景に黒字の「感嘆符付き三角」記号は、安全性に関する重要な情報である、次のフィンランド、ノルウェー、およびスウェーデンの国別規格への参照を示します。

- 日本語: アースタイプの接続プラグが付いた電源装置コードは、アースタイプの電源コンセントで使用する必要があります。
- Finnish: Laite on iitettävä suojamaadoituskoskettimilla varustettuun pistorasiaan.
- Norwegian: Apparatet må tilkoples jordet stikkontakt.
- Swedish: Apparaten skall anslutas till jordat uttag.

UNIX コマンド

このマニュアルには、システムの停止、システムの起動、およびデバイスの構成などに使用する基本的な UNIX[®] コマンドと操作手順に関する説明が含まれていない場合があります。これらについては、以下を参照してください。

- 使用しているシステムに付属のソフトウェアマニュアル
- 下記にある Solaris[™] オペレーティングシステムのマニュアル
<http://docs.sun.com>

シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	<i>machine_name%</i>
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#

書体と記号について

書体または記号*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	% su Password:
<i>AaBbCc123</i>	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	% grep \^#define \ XV_VERSION_STRING'

* 使用しているブラウザにより、これらの設定と異なって表示される場合があります。

関連マニュアル

Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバーのマニュアルセットの詳細は、次の URL でこの製品のマニュアル Web サイトを参照してください。

http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/x64_servers/v20z_v40z/index.html

この Web サイトで入手可能なマニュアルの一部は、フランス語、日本語、韓国語、簡体字中国語、および繁体字中国語に翻訳されています。これらの翻訳版のマニュアルよりも、英語版のマニュアルの方が改訂頻度が高く、より最新の情報が記載されている場合があります。

製品の更新、マニュアル、サポート、トレーニング、および保証に関する URL

Sun の Web サイトでは、マニュアル、ドライバ、ファームウェア、および CD-ROM の .iso イメージのアップデートが提供されています。また、この Web サイトから、テクニカルサポート、トレーニングサービスなどを利用できます。これらの Sun のサービスにアクセスするには、次のリンクを使用してください。

Sun のサービス	URL
マニュアル	http://jp.sun.com/documentation/
ファームウェア、ドライバ、CD-ROM の .iso イメージなどのアップデート	http://www.sun.com/servers/entry/v20z/downloads.jsp http://www.sun.com/servers/entry/v40z/downloads.jsp
テクニカルサポート	http://www.sun.com/service/contacting
トレーニング	http://jp.sun.com/training/
Solaris™ オペレーティングシステムのマニュアル	http://docs.sun.com
保証	http://www.sun.com/service/support/warranty/index.html

Sun 以外の Web サイト

このマニュアルで紹介する Sun 以外の Web サイトが使用可能かどうかについては、Sun は責任を負いません。このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料についても、Sun は保証しておらず、法的責任を負いません。また、このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、商品、サービスの使用や、それらへの依存に関連して発生した実際の損害や損失、またはその申し立てについても、Sun は一切の責任を負いません。

コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー ご使用にあたって』、Part No. 819-2913-17

第1章

ハードウェアおよびファームウェアに関する情報と問題

この章では、次に示す内容を含めて、Sun Fire V20z および Sun Fire V40z ハードウェアに関する問題について説明します。

- 1-1 ページの 1.1 節「サーバーのバージョン」
- 1-3 ページの 1.2 節「Sun Fire V20z サーバーおよび Sun Fire V40z サーバーの注意事項」
- 1-15 ページの 1.3 節「Sun Fire V20z サーバー固有の注意事項」
- 1-18 ページの 1.4 節「Sun Fire V40z サーバー固有の注意事項」

1.1 サーバーのバージョン

Sun Fire V20z サーバーと Sun Fire V40z サーバーでは、複数のバージョンがリリースされています。すべてのハードウェアおよびソフトウェアコンポーネントが、各サーバーのすべてのバージョンと互換性があるとは限りません。特に、メモリー VRM および CPU VRM には、特定のハードウェア構成と互換性がない場合があります。

Sun Fire V20z サーバーと Sun Fire V40z サーバーの各リリースでのハードウェアおよびソフトウェアの互換性情報については、表 1-1 を参照してください。特定のハードウェア構成に対して互換性を持つ BIOS および NSV のバージョンが複数ある場合、その構成は一覧に何度も記載されます。

サーバー間の相違点の詳細は、『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバーユーザーマニュアル』を参照してください。このマニュアルは、Sun のマニュアル Web サイトで入手可能です。

注 - シャーシのパーツ番号 (PN) は、サーバーのフロントパネルの DVD-ROM/フロッピーディスクドライブ構成部品の近くにあるラベルに記載されています。

表 1-1 各サーバーバージョンのコンポーネントとソフトウェア間の互換性

FRU シャーシ PN	マザーボード PN	CPU ステッピング バージョン	必要な CPU VRM PN	DDR メモ リー DIMM の種類	必要な メモリー VRM PN	NSV の 最小要件	BIOS の 最小要件
Sun Fire V20z サーバー							
380-0979	370-6730	C0	F370-6680	DDR 333	F370-6646	2.1.0.9f	1.27.11
380-1168	370-7691	CG	F370-6680	DDR 333	F370-6646	2.1.0.16b	1.30.5
380-1194	370-7788	E6、E4	F370-7746	DDR 333 DDR 400	F370-7747	2.2.0.6h	1.32.7.2
380-1194	370-7788	E6、E4	F370-7746	DDR 333 DDR 400	F370-7747	2.3.0.11	1.33.5.2
380-1194	370-7788	E6、E4、E1	F370-7746	DDR 333 DDR 400	F370-7747	2.3.0.11c	1.33.7.2
380-1194	370-7788	E6、E4、E1	F370-7746	DDR 333 DDR 400	F370-7747	2.4.0.6	1.34.4.2
380-1194	370-7788	E6、E4、E1	F370-7746	DDR 333 DDR 400	F370-7747	2.4.0.8	1.34.6.2
380-1194	370-7788	E6、E4、E1	F370-7746	DDR 333 DDR 400	F370-7747	2.4.0.12	1.35.2.2
Sun Fire V40z サーバー							
380-1010	370-6929	CG	F370-6680	DDR 333	F370-6646	2.1.0.16b	2.22.4
380-1206	370-7808	E6、E1	F370-7746	DDR 333 DDR 400	F370-7747	2.2.0.6h	2.32.8.2
380-1206	370-7808	E1	F370-7746	DDR 333 DDR 400	F370-7747	2.3.0.11	2.33.5.2
380-1206	370-7808	E4、E1	F370-7746	DDR 333 DDR 400	F370-7747	2.3.0.11c	2.33.7.2

表 1-1 各サーバーバージョンのコンポーネントとソフトウェア間の互換性 (続き)

FRU シャーシ PN	マザーボード PN	CPU ステッピング バージョン	必要な CPU VRM PN	DDR メモ リー DIMM の種類	必要な メモリー VRM PN	NSV の 最小要件	BIOS の 最小要件
380-1206	370-7808	E6、E4、 E1、CG、C0	F370-7746	DDR 333 DDR 400	F370-7747	2.4.0.6	2.34.4.2
380-1206	370-7808	E6、E4、 E1、CG、C0	F370-7746	DDR 333 DDR 400	F370-7747	2.4.0.8	2.34.6.2
380-1378	375-3438	E6、E4、 E1、CG、C0	F371-1463	DDR 333 DDR 400	F371-1464	2.4.0.12	2.35.2.2

1.2 Sun Fire V20z サーバーおよび Sun Fire V40z サーバーの注意事項

1.2.1 使用している OS での PowerNow! の構成

NSV release 2.4.0.6 以降には、消費電力と放熱量を低減するために AMD によって開発された PowerNow! テクノロジーが実装されています。PowerNow! は、カーネル負荷が低いときに CPU の周波数と電圧を下げることで、消費電力と放熱量の低減を実現しています。

注 – PowerNow! を使用すると CPU の周波数および電圧が変化するため、クロック速度が変動します。システムリソースの利用の程度によっては、示される速度が CPU の事実上 (最大) の速度より大幅に低い場合があります。たとえば、2.2 GHz のプロセッサを搭載している場合、低負荷時には CPU のクロックが低下し、1.0 GHz 以下と示されることがあります。これは正常な動作であり、省電力モードになっていることを示します。



注意 – 一部のオペレーティングシステムでは PowerNow! がサポートされていません。PowerNow! がサポートされるオペレーティングシステムでは、PowerNow! がデフォルトで有効になっています。次に続く節で、使用している特定のオペレーティングシステムに関する情報を熟読してください。この機能を使用しない場合、または使用しているオペレーティングシステムで PowerNow! がサポートされない場合は、この機能を無効にしてください。使用している特定のオペレーティングシステムのマニュアルで確認してください。

1.2.1.1 Solaris での PowerNow!

現在、Solaris オペレーティングシステムでは PowerNow! はサポートされていません。

1.2.1.2 Linux での PowerNow!

一部の Linux オペレーティングシステムでは PowerNow! がサポートされていません。PowerNow! がサポートされる Linux オペレーティングシステムでは、HPET を使用可能にする必要があります。PowerNow! プロセッサが搭載されているシステム上で HPET を使用不可にする場合、このセクションで示す手順に従って OS を適切に設定してください。使用しているオペレーティングシステムのマニュアルも参照してください。

1.2.1.3 Red Hat Enterprise Linux 4

RHEL-4 (64 ビット) および RHEL-4 Update 1 (64 ビット)

RHEL-4 (64 ビット) では PowerNow! はサポートされません。次のように PowerNow! を使用不可にする必要があります。

1. 次のコマンドを入力します。

```
$ chkconfig --level 12345 cpuspeed off
```

2. システムを再起動します。

RHEL-4 (32 ビット) および RHEL-4 Update 1 (32 ビット)

現時点では RHEL-4 (32 ビット) では PowerNow! はサポートされていません。PowerNow! はデフォルトで使用不可になっています。何の操作も必要ありません。

1.2.1.4 SuSE Linux Enterprise Server 9

このセクションで説明するように、一部のバージョンの SLES-9 で PowerNow! がサポートされます。

SLES-9 SP2 (64 ビット)

PowerNow! は、すべてのシステム上で、デフォルトで使用可能になっています。PowerNow! 機能を使用可能にする操作は不要です。

SLES-9 SP1 (64 ビット)

現時点では SLES-9 SP1 (64 ビット) では PowerNow! はサポートされていません。次の手順に従って PowerNow! を使用不可にします。

1. テキストエディタで次のファイルを開きます。

```
/etc/sysconfig/powersave/common
```

2. 次の行を変更します。

```
POWERSAVE_CPUFREQD_MODULE=" "
```

次のように変更します。

```
POWERSAVE_CPUFREQD_MODULE="off"
```

3. システムを再起動します。

SLES-9 SP2 (32 ビット)

SLES-9 SP2 以降 (32 ビット) で PowerNow! を使用可能にして使用するには、次の手順を実行します。

1. 次のファイルに起動パラメータ `clock=pmtmr` を追加します。

```
/boot/grub/menu.lst
```

2. システムを再起動します。

デュアルコアプロセッサの場合の SLES-9 SP1 (32 ビット)

SLES-9 SP1 (32 ビット) 環境のデュアルコアプロセッサでは PowerNow! はサポートされません。次の手順に従って PowerNow! を使用不可にします。

1. テキストエディタで `/etc/sysconfig/powersave/common` ファイルを開き、次の行を変更します。

```
POWERSAVE_CPUFREQD_MODULE=" "
```

次のように変更します。

```
POWERSAVE_CPUFREQD_MODULE="off"
```

2. システムを再起動します。

シングルコアプロセッサの場合の SLES-9 SP1 (32 ビット)

PowerNow! は SLES-9 SP1 (32 ビット) 環境のシングルコアプロセッサではサポートされません。次の手順に従って PowerNow! を使用可能にします。

1. テキストエディタで `/boot/grub/menu.lst` ファイルを開き、起動パラメータ `clock=pmtmr` を追加します。
2. システムを再起動します。

1.2.2 センサーファンの警告

センサーファン 5 ~ 12 では、プラットフォームの電源投入時に 0 rpm と報告される場合がありますが、すぐに正常な状態に戻ります。

重大イベントに対して SNMP や電子メールなどによる警告が設定されている場合、ファン警告が発生すると通知が生成されます。この問題は、ファン、またはシステムのその他の部分のパフォーマンスには影響しません。

1.2.3 LSI オプションのデフォルトとスワップドライブの自動再構築

LSI オプションのデフォルトは、RAID 1E (IME) の機能に干渉し、スワップドライブを自動的に再構築します。次の回避方法を実行すると、IME RAID アレイで障害が発生したドライブを再構築できます。

1. システムの起動およびオンボード LSI SCSI コントローラの初期化中に、Ctrl+C を押して LSI 構成ユーティリティを起動します。
2. PCI バス 2 上の SCSI アダプタを選択し、Enter キーを押します。
3. メニューから RAID プロパティを選択し、Enter キーを押します。
4. 「Device Identifier」リストで、ホットスペアとして追加するドライブを特定します。
通常、このドライブの SCSI ID は障害が発生したドライブと同じですが、正しく機能するディスクと交換されています。この例では、SCSI ID 0 を使用します。
5. 手順 4 で特定したドライブの「Hot Spare」フィールドを強調表示し、- (マイナス) キーを押してドライブをホットスペアとして追加します。
「Hot Spare」フィールドの値が「No」から「Yes」に変わります。

6. Delete キーを押してこのドライブをホットスペアとして組み込みます。
このドライブを他のドライブと同期化できるように、ドライブが消去されます。
7. Esc キーを押します。
メニューが表示されます。
8. 「Save changes and Exit」メニューを選択して選択内容を確認し、Enter キーを押します。
ドライブが現在の IME RAID アレイに同期化されます。

注 – 同期化が高速になるように、システムをオペレーティングシステムまで起動します。

1.2.4 4 機能 PCI-X オプションカード

Sun の Quad Gigabit Ethernet カードの X9273A などの 4 機能 PCI-X オプションカードは、133 MHz で動作している場合は、Sun Fire V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバーではサポートされません。このタイプのカードを取り付ける場合は、使用しているサーバーに応じて選択できるオプションが異なります。

1.2.4.1 Sun Fire V40z サーバー

このサーバーには、133 MHz の PCI-X スロットが 4 つあります。4 機能オプションカードをこれら 4 つのスロットのいずれかに取り付けることはできますが、BIOS によってカードのクロックが 100 MHz に下げられます。バスのクロックが 133 MHz から 100 MHz に下げられたことが、BIOS から通知されることはありません。BIOS のこの設定を書き換えることはできません。

1.2.4.2 Sun Fire V20z サーバー

このサーバーには、133 MHz の PCI-X スロットが 1 つあります。このスロットのクロックを下げることはできないため、Sun Fire V20z で 4 機能 PCI-X オプションカードを使用することはできません。

4 機能オプションカードをこのスロットに取り付けると、起動プロセス中に次の警告メッセージが表示されます。

```
Caution:
Due to AMD-8131 Errata 56, the 133MHz PCI-X card in Slot02 has
been disabled.Please shut down, move the card to a 100MHz or
66MHz PCI-X slot and reboot.Refer to the AMD-8131 Revision
Guide for more details.If you wish to use this card at 133MHz,
with a full understanding of Errata 56, please enter Setup and
enable the "8131 Errata 56 PCLK" option.
```

```
Press <F1> to resume.Press <F2> to go to Setup.
```

表示されているプロンプトに従わずカードを取り外さない場合は、次の手順を実行します。

1. 「Setup」メニューで「Settings」>「Advanced」を選択します。
2. 「8131 Errata 56 PCLK」オプションを「Enabled」に設定します。このオプションは、デフォルトでは「Disabled」に設定されています。
 - *Disabled* — サーバーを起動するたびに起動警告メッセージが表示され、オプションカード自体が使用不可になります。
 - *Enabled* — サーバーを起動したときに警告メッセージは表示されず、オプションカードを 133 MHz で使用できますが、**データ破壊の危険性があります。**



注意 – Sun Fire V20z サーバーで 4 機能 PCI-X オプションカードを取り付けた場合に 133 MHz スロットを使用可能にすることはお勧めしません。データが破壊される可能性があります。

詳細は、公開されている次の AMD のドキュメントを参照してください。

http://www.amd.com/us-en/assets/content_type/white_papers_and_tech_docs/26310.pdf

1.2.5 9600 ボーを超える速度でのシリアルコンセントレータの障害

このサーバーで 9600 を超えるボーレートを設定すると、フレームエラーのため、一部のシリアル端末集配信装置 (コンセントレータ) がこのサーバーでは機能しなくなります。この問題は、非常に高速のプロセッサと 16 バイトの FIFO 付き UART がサーバーにあり、転送帯域幅が完全に飽和状態になるために発生します。このとき、非同期バイト間には空きがなくなり、1 バイトのストップビットの直後に次のバイトのスタートビットが続くようになります。

そのため、この処理の受信側の端末 (またはその他のデバイス) には、1 バイトも欠落させずに処理を続行できるだけの速度が必要です。シリアルコンセントレータが受信側のオーバーフローを解消して受信を再開すると、スタートビットおよびストップビットの位置はもはや検出できません。こうして、検出されるものも検出されないものも含めて、フレームエラーが続くことになります。

回避方法

Sun Fire V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバーで、次の手順を実行します。

1. F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティを起動します。
2. 「Advanced」メニューで「Console Redirection」サブメニューを選択し、Enter キーを押します。
3. 「Console Redirection」メニューで「Baud Rate」オプションを選択し、必要なボーレートを選択します (デフォルトは 9600)。
4. 「Flow Control」オプションを選択し、「CTS/RTS」を選択します。
5. 「Console Type」オプションを選択し、必要な端末タイプを選択します。
6. F10 キーを押して変更内容を保存します。

シリアルコンセントレータのコンソールで、次の手順を実行します。

1. 希望するポート番号を選択します。
2. サーバーで選択したボーレートと同じボーレートを選択します。
3. 「Flow Control」オプションで「Hardware」を選択します。
4. 「DCD Sensitive」オプションで、必要に応じて「Yes」または「No」を選択します。
5. 適切な RJ-45 メス→DB-9 メス・アダプタを使用していることを確認します。詳細は、シリアルコンセントレータのユーザーマニュアルを参照してください。

それでも多少のフレームエラーが発生する場合は、サーバーとシリアルコンセントレータの間のケーブル配線を確認します。

1.2.6 Intel デュアルポート Ethernet PCI カード (Linux のみ)

Linux オペレーティングシステム (OS) が動作するサーバーでは、デュアルポート Ethernet PCI カード (Pro1000MT) のポートの 1 つで、データの転送および受信が停止する可能性があります。

デュアルポート PCI カード上のトラフィックが多い時間帯に、ある時点で、カードのポートの 1 つでデータの転送および受信が停止する可能性があります。もう一方のポートは引き続き機能します。通常、PCI カードをリセットするまで、ポートのサービスは停止したままです。NETDEV ウォッチドッグがタイムアウトしてカードがリセットされる場合もあります。

PCI カードは、コマンド `ifconfig` によって手動でリセットするか、NETDEV ウォッチドッグのタイムアウトによって自動的にリセットできます。

この問題が発生した場合、ネットワーク統計情報に、破棄されたパケットのエラー数の増加が示されます。ネットワーク統計情報は、`ifconfig` コマンドを実行することによって表示できます。

回避方法

この問題を解決するには、次の手順を実行して「最大メモリー読み取りバイト数」の値を 512 に設定します。

1. 使用しているデュアルポートカードの正しいバス ID を確認するには、root ユーザーとして次のコマンドを実行します。

```
# lspci | grep Intel
```

バス ID は、サーバーに取り付けられている PCI カードの数と場所によって異なります。バス ID は、`bus:device.function` の形式で表示されます。書式は、`bb:dd.f` です。

次に、このコマンドの出力の例を示します。

```
03:01.0 Ethernet controller: Intel Corp.: Unknown device 1079 (rev 03)
03:01.1 Ethernet controller: Intel Corp.: Unknown device 1079 (rev 03)
```

バス ID は、各行の先頭に表示されます。この例では、バス ID は 03:01.0 および 03:01.1 です。

2. 使用しているオペレーティングシステムの起動スクリプトの末尾に、次の 2 つのコマンドを追加します。これらのコマンドによって、最大バイト数は 512 に設定されます。

```
/usr/X11R6/bin/pctitweak -w bb:dd:0f 0xe4 0x0002f007
```

```
/usr/X11R6/bin/pctitweak -w bb:dd:0f 0xe4 0x0002f007
```

`bb:dd:0f` には、手順 1 で確認したバス ID を指定します。

注 – これら 2 つのコマンドでは、1 桁の f の値の前に 0 (ゼロ) を追加し、「.」(ピリオド) を「:」(コロン) に変更します。前述の例では、03:01.0 は 03:01:00 に、03:01.1 は 03:01:01 に変更されています。

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 3 の場合、パスおよび起動スクリプトファイルは次のとおりです。

```
/etc/rc.d/rc.local
```

SUSE Linux ディストリビューションの場合、パスおよび起動スクリプトファイルは次のとおりです。

```
/etc/rc.d/boot.local
```

3. 起動スクリプトファイルを変更したら、ファイルを保存してサーバーを再起動します。

1.2.7 Intel PCI ネットワークインタフェースカードでの Rx-ERR の可能性 (ポートツーポート接続のみ)

データ受信エラー (Rx-ERR) は、サーバーがスイッチやルーターを介さずに (ポートツーポートで)、Intel PCI ネットワークインタフェースカード (NIC) のポートを使用して直接接続される場合にのみ発生する可能性があります。ポートツーポート接続は、通常、ネットワークサーバー環境では構成されません。

1.2.8 LSI U320 PCI カードの追加による無視できるエラーの発生

LSI U320 PCI カード (LSI22320-R) をサーバーに追加して再起動したあとに、次のエラーメッセージが表示される場合があります。

```
Initializing.....
Adapter configuration may have changed, reconfiguration is
suggested!
```

このメッセージは無視しても問題ありません。サーバーは正常に起動されます。デフォルトの状態に戻しても、このカードを使用するときにはこのメッセージが表示されます。

1.2.9 特定のドライブを使用する場合に外部アレイでサポートされない LSI U320 PCI カード

外部 SCSI アレイをアドオン LSI U320 PCI カード (Sun パーツ番号 X9265A) に接続する場合、次のドライブおよびファームウェアレベルはサポートされません。

次に示すファームウェアレベルを使用するタイプのドライブでは、データ不一致 (Data-miscompare) の問題が発生しています。

ドライブ	ファームウェアレベル
Seagate ST336607LSUN36G	0407 以前
Seagate ST336753LSUN36G	0349 以前
Seagate ST373307LSUN73G	0407 以前
Seagate ST373453LSUN73G	0349 以前

この問題を解決するには、これらのドライブのファームウェアを、0507 以降 (10K rpm ドライブの場合) および 0449 以降 (15K rpm ドライブの場合) に更新します。

1.2.10 オンボード RAID のミラー化の同期時間

Linux オペレーティングシステムでは、Sun が提供する LSI ドライバをインストールする必要があります。Linux のドライバは、Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers Documentation and Support Files CD の /support ディレクトリに収録されています。

注 – Solaris オペレーティングシステムには、適切なドライバがすでに組み込まれています。

1.2.10.1 同期時間の見積もり

同期処理の所要時間は、ハードディスクドライブのサイズと、OS および LSI ドライバが読み込まれているかどうかによって異なります。

同期処理が完了する前にサーバーを再起動した場合、同期処理はサーバーの再起動が終了したあとに再開されます。

1.2.10.2 OS およびドライバがサーバーに読み込まれていない場合

LSI ドライバが読み込まれていない場合 (通常、OS がサーバーにまだインストールされていない場合)、ハードディスクドライブの同期をとるためのデータ転送は非同期モードで動作します。この場合の転送速度は、同期モードに比べて 10 倍以上遅くなります。

非同期モードで 2 つのハードディスクドライブの同期をとるために必要な平均時間は、記憶領域 1G バイトにつき約 1 時間です。つまり、OS がインストールされていない場合には、2 つの 73G バイトハードディスクドライブの同期をとるために約 73 時間 (3 日以上) が必要になります。

同期処理中、サーバーは「サービス停止」状態にはなりません。ハードディスクドライブへのアクセスは継続できます。

1.2.10.3 OS および LSI ドライバがサーバーに読み込まれている場合

OS が適切な SCSI ドライバとともにサーバーにインストールされている場合は、データ転送は同期モードで動作し、転送速度は最大 3M バイト/秒になります。

2 つのハードディスクドライブの同期をとるために必要な概算時間を計算するには、次の数式を使用します。Vol は、G バイト単位でのボリュームサイズを表します。

再同期時間 (時間) = $((Vol * 1024) / 3M \text{ バイト/秒}) / 3600$

73G バイトのハードディスクドライブが 2 つある場合、同期時間は次のとおりです。

$((73 * 1024) / 3) / 3600 = 6.92 \text{ 時間 (6 時間 55 分)}$

1.2.11 SP プラットフォームの停止または電源の再投入コマンドに必要な -f 引数



注意 – このコマンドを実行する前に、プラットフォームのファイルシステムの同期化を実行します。これを実行するには、コンソールまたはコマンド行プロンプトで **sync** と入力します。

コマンド **platform set power state off -f** を実行すると、プラットフォーム OS の電源装置はただちに切断されるため、プラットフォームのファイルシステムに悪影響を与える場合があります。これは、フロントパネルの電源ボタンを押してサーバーを停止した場合と同じ結果になります。

注 - サービスプロセッサ (SP) を使用して遠隔でサーバーの電源を切る場合には、nps パッケージを取り付けてください。nps パッケージを取り付けると、-f 引数を使用することなく、SP プラットフォームの停止または電源の再投入コマンドを使用してサーバーを正常に停止できます。nps パッケージは、製品に付属の Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers Documentation and Support Files CD、または次のダウンロードセンターの V20z および V40z サーバーのリンクから入手できます。
<http://www.sun.com/download/index.jsp?tab=2>

nps パッケージをサーバーに取り付けていない場合は、SP コマンド行からこれらの SP コマンドのいずれかを実行するときに、-f 引数を追加する必要があります。-f 引数は、強制的にサーバーの停止または電源の再投入を行います。

この場合、サーバーを停止する SP コマンド行構文は、次のとおりです。

```
$ platform set power state off -f
```

サーバーの電源を再投入する SP コマンド行構文は、次のとおりです。

```
$ platform set power state cycle -f
```

1.2.12 PCI カードの追加による POST エラーメッセージ

PCI カードをサーバーに追加すると、電源投入自己診断 (Power-On Self Test、POST) 時に、次の例に示すエラーメッセージが表示される場合があります。

```
Error Message: Expansion ROM not initialized.  
PCI Mass Storage Controller in Slot 01  
Bus: 02, Device: 05, Function:00
```

このとき F1 キーを押すと、OS は正常に読み込まれます。

1.2.12.1 「Option ROM Scan」の使用不可への切り替えによる POST エラーメッセージの回避

次の手順を実行して、エラーメッセージの表示を回避します。この手順を完了すると、起動時に POST エラーメッセージが表示されなくなります。

注 – この手順の実行後、このアドインカードからサーバーが起動されなくなります。エラーメッセージを使用不可にし、アドインカード (SCSI 制御のカードにのみ適用) から起動するには、次のセクションで説明する手順を実行します。

1. F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティを起動します。
2. 「Advanced」メニューで「PCI Configuration」サブメニューを選択します。
3. 「PCI Device Slot 1」または「PCI Device Slot 2」を選択します。新しい装置を取り付けたスロットを選択します。
4. 「Option ROM Scan」の値を「Disabled」に変更します。
5. F10 キーを押して変更内容を保存します。

以降の POST の実行では、エラーメッセージは表示されません。

1.2.12.2 SCSI 制御カードから起動するためのオンボード NIC の「Option ROM Scan」の使用不可への切り替え

次の手順を実行して、エラーメッセージの表示を回避します。この手順を完了すると、POST エラーメッセージを表示しないで、SCSI 制御のカードからの起動が可能になります。

1. F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティを起動します。
2. 「Advanced」メニューで「PCI Configuration」サブメニューを選択します。
3. 「Embedded Broadcom Gbit 0」または「Embedded Broadcom Gbit 1」を選択します (ネットワーク上の PXE サーバーに接続していないポートを選択します)。
4. 「Option ROM Scan」の値を「Disabled」に変更します。
5. F10 キーを押して変更内容を保存します。

1.3 Sun Fire V20z サーバー固有の注意事項

このセクションでは、Sun Fire V20z サーバーの最初のリリースおよび更新リリースでの既知の問題および考慮事項について説明します。各リリースの詳細は、『Sun Fire V20z サーバーおよび Sun Fire V40z サーバーのバージョン間の相違点』を参照してください。

1.3.1 更新後の誤った BIOS バージョンの表示

BIOS アップデートを実行した後、SP によって古い BIOS バージョンが表示される場合があります。この問題を解決するには、次のコマンドを使用してプラットフォームを再起動します。

```
platform set os state reboot
```

1.3.2 シリアルポートでの誤った割り込み

シリアルポートの浮動状態の割り込みピンによって、Sun Fire V20z サーバーのマザーボード上のシリアルポートで誤った割り込みが発生します。

この問題は、Serial-over-LAN 機能を使用する場合にのみ発生します。

Serial-over-LAN 機能を使用しない場合は、次の手順を実行することによってこの問題を回避できます。

1. サーバーの電源を入れるか、再起動します。
2. F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティを起動します。
3. 「Console Redirection」オプションを無効にします。

1.3.2.1 Serial-over-LAN の使用

Serial-over-LAN 機能を使用する場合は、次の手順を実行します。

1. サーバーを最新の BIOS リリースに更新します。これは、Sun Download Center からダウンロードできる NSV 2.2.0.8 以降に含まれています。

Solaris™ ベースのシステムが動作している場合は、BIOS の更新後に特別な変更を行う必要はありません。

この問題が引き続き発生する場合は、次の手順に従って、シリアルポートを介してコンソールをリダイレクトできます。この手順は、『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー—サーバー管理マニュアル』の第 4 章にも記載されています。

注意 – シリアルを介したコンソールのリダイレクトは、Solaris に熟練したユーザーのみが行うようにしてください。bootenv.rc ファイルに問題が発生すると、サーバーの通常の機能に重大な障害が発生するか、サーバーが起動できなくなる場合があります。

注 – デフォルトでは、出力デバイスは `screen`、入力デバイスは `keyboard` に設定されています。

1.3.2.2 Solaris の設定の変更および確認

Solaris ベースのサーバーで「Console Redirection over Serial」を有効にするには、次の手順を実行します。

1. 端末ウィンドウで、`eeeprom` コマンドを実行し、次に示すように出力デバイスおよび入力デバイスの設定を変更します。

```
eeeprom output-device=ttya
```

```
eeeprom input-device=ttya
```

注 – Solaris 10 1/06 以降の場合、次のコマンドを使用します。

```
eeeprom console=ttya
```

2. 変更を確認するには、端末ウィンドウで、引数を指定せずに `eeeprom` コマンドを実行します。

端末ウィンドウに、`bootenv.rc` ファイルの内容が表示されます。

3. 次の行を検索し、正しい値が表示されているかどうかを確認します。

```
output-device=ttya
```

```
input-device=ttya
```

1.3.2.3 Solaris のデフォルト設定へのリセット

出力デバイスおよび入力デバイスをデフォルト設定にリセットするには、次の引数を指定して `eeeprom` コマンドを実行します。

```
eeeprom output-device=screen
```

```
eeeprom input-device=keyboard
```

注 – Solaris 10 1/06 以降の場合、次のコマンドを使用します。

```
eeeprom console=text
```

1.3.2.4 Linux の設定の変更

Linux ベースのシステムが動作している場合は、次の変更を行います。

/etc/securetty ファイルの末尾に次の行を追加します。

ttyS0

/etc/inittab ファイルの gettys のリストに次の行を追加します。

co:2345:respawn:/sbin/agetty -L ttyS0 9600 vt100

inittab ファイルの gettys のリストは、次のようになります。

```
# getty-programs for the normal runlevels
# <id>:<runlevels>:<action>:<process>
# The "id" field MUST be the same as the last
# characters of the device (after "tty").
co:2345:respawn:/sbin/agetty -L ttyS0 9600 vt100
1:2345:respawn:/sbin/mingetty --noclear tty1
2:2345:respawn:/sbin/mingetty tty2
3:2345:respawn:/sbin/mingetty tty3
4:2345:respawn:/sbin/mingetty tty4
5:2345:respawn:/sbin/mingetty tty5
6:2345:respawn:/sbin/mingetty tty6
```

1.4 Sun Fire V40z サーバー固有の注意事項

このセクションでは、Sun Fire V40z サーバーの最初のリリースおよび更新リリースでの問題について説明します。各リリースの詳細は、『Sun Fire V20z サーバーおよび Sun Fire V40z サーバー—サーバーのバージョン間の相違点』を参照してください。

1.4.1 4G バイト DIMM

Sun Fire V20z サーバーおよび Sun Fire V40z サーバーでは、現在 4G バイト DDR1-400 DIMM がサポートされます。注文するには、次の URL にある Sun Store にアクセスしてください。

<http://store.sun.com>

1.4.2 PCI/PCIX ホットプラグの有効化/無効化 (V40z のみ)

PCI/PCIX ホットプラグ機能は、ホットプラグ PCI および PCIX スロットのためにリソースを予約します。この機能は、PCI/PCIX ホットプラグ用にメモリーを予約しているため、このメモリーをほかの用途に使用することはできません。4G バイト未満のシステムでは、この損失は無視できます。ただし、メモリーが 4G バイト以上のシステムでは、メモリー損失が許容範囲を超える場合があります。

release 2.4.0.6 より前の NSV では、PCI/PCIX ホットプラグ機能はデフォルトで「有効」になっており、これを無効にすることはできませんでした。

release 2.4.0.6 以降の NSV では、この機能は「無効」になっており、次に続くセクションで説明するように、この機能を有効または無効に切り替えることができます。

注意 – Sun では PCI/PCIX ホットプラグはサポートされません。また、Linux または Solaris でもサポートされません。次に続く節は、情報提供のみを目的としています。

1.4.2.1 PCI/PCIX ホットプラグ機能の有効化

release 2.4.0.6 以降で PCI/PCIX ホットプラグ機能を使用するには、次の手順を実行して BIOS でこの機能を有効にします。

1. F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティを起動します。
2. 「Advanced」メニューで「PCI Configuration」サブメニューを選択します。
3. 「PCI/PCIX Hot Plug Enable」を選択します。
デフォルト値の [Disabled] が表示されます。
4. 下矢印キーを押してこの値を [Enabled] に切り換えます。
5. F10 キーを押して変更内容を保存します。
6. システムを再起動します。

1.4.2.2 PCI/PCIX ホットプラグの有効化の確認

PCI/PCIX ホットプラグ機能が有効になっていることを確認するには、次の手順を実行します。

1. F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティを起動します。
2. 「Advanced」メニューで「PCI Configuration」サブメニューを選択します。

トグルに [Enabled] と表示されている必要があります。

1.4.3 Topspin Infiniband ホストチャネルアダプタ

注 – この問題は、NSV 2.2.0.6h 以降に含まれている BIOS では解決されています。

注 – Boot-Over-InfiniBand 機能は、現時点ではサポートされていません。

BIOS version 2.18.11 以前が動作している Sun Fire V40z サーバーでは、Topspin Infiniband ホストチャネルアダプタ (HCA) (Sun PN X9270A) のサポートは、スロット 2 およびスロット 3 に限定されています。

1.4.4 PCI オプションカード: Sun Dual Gigabit Ethernet + Dual SCSI PCI カード

Sun Fire V40z サーバーには、複数の Sun Dual Gigabit Ethernet + Dual SCSI PCI オプションカードを取り付けることができます。ただし、2 枚のオプションカードを PCI スロット 2 とスロット 3 に同時に取り付けることはできません。

たとえば、Sun Dual Gigabit Ethernet + Dual SCSI PCI オプションカードを PCI スロット 2 に取り付けた場合、1 枚以上の同じオプションカードをスロット 4、5、6、または 7 に取り付けることはできますが、スロット 3 には取り付けることはできません。

このオプションカードの詳細は、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.sun.com/products/networking/ethernet/dualgigabitethernet/details.xml#Supported%20Platforms-12>

1.4.5 1 台の電源装置を切り離した際の SP イベントログメッセージ

Sun Fire V40z サーバーに 2 台の電源装置を取り付けている場合、サーバーはそれぞれの電源装置に AC 電源コードを接続することによって動作します。

1 本の電源コードを取り外すと、電源装置が切り離されたことを示すメッセージによって SP イベントログがいっぱいになります。このメッセージは無視できますが、ログのその他のイベントを参照できなくなる場合があります。

第2章

ソフトウェアに関する情報と問題

この章では、ソフトウェアに関する情報を示します。サーバーを入手可能な最新のソフトウェアに更新するには、次の URL にアクセスします。

<http://www.sun.com/servers/entry/v20z/support.jsp>

<http://www.sun.com/servers/entry/v40z/support.jsp>

この章では、次の内容について説明します。

- 2-1 ページの 2.1 節「Linux オペレーティングシステムに関する問題」
- 2-5 ページの 2.2 節「Solaris オペレーティングシステムに関する問題」
- 2-7 ページの 2.3 節「Sun Installation Assistant に関する問題」
- 2-10 ページの 2.4 節「診断に関する問題」

2.1 Linux オペレーティングシステムに関する問題

この節では、サポートされる Linux オペレーティングシステムを Sun Fire V20z サーバーおよび Sun Fire V40z サーバー上で動作させる場合の問題について説明します。いずれの項目についても、その製品の Web サイトで機能拡張の予定があるかどうかを確認してください。

- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 3.0 に付属する Trident サーバービデオドライバによって、特定の条件下でシステムの動作停止が発生する場合があります。その条件については、次に示す Red Hat の Bugzilla データベース内で説明されています。

https://bugzilla.redhat.com/bugzilla/show_bug.cgi?id=113533

この問題を回避するため、RHEL 3.0 に含まれる VESA X サーバービデオドライバを使用してください。

インストール時に VESA ドライバを選択するには、通常どおり、「Graphical Interface (X) Configuration」画面が表示されるまで進みます。次に、「Other drivers」メニューを展開して「VESA driver (generic)」を選択します。

インストール後に VESA ドライバを選択するには、Trident ドライバの使用を VESA ドライバの使用に切り替えます。手順の詳細は、RHEL のマニュアルを参照してください。

- 32 ビット版の RHEL 3.0 は、4G バイトを超える物理メモリーが取り付けられていても、4G バイトまでしか認識しません。これは、デフォルトのカーネルの制限です。

その他の一部の 32 ビット版の Linux でも、デフォルトのカーネルの制限によって、4G バイトを超えるメモリーの認識に問題があります。OS でこの問題が発生する場合は、目的のメモリー構成をサポートする適切なカーネルの入手方法を OS のベンダーに問い合わせてください。

- Linux サーバーを管理するために、カスタマイズされた OpenIPMI Linux カーネルドライバをインストールする必要があります。このカスタマイズされた OpenIPMI ドライバをインストールする方法の詳細は、『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー—サーバー管理マニュアル』を参照してください。
- 一部のオペレーティングシステムは、CD-ROM ではなく DVD 媒体で頒布される場合があります。Sun Fire V20z サーバーの場合は、オプションの DVD-ROM/フロッピーディスクドライブ (X9260A) を入手して、DVD 媒体からソフトウェアをインストールすることをお勧めします。

注 – Sun Fire V40z サーバーのオプションは、DVD/フロッピーディスクドライブのみです。

- SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 8 を、X-windows ベースのインストールユーティリティーを使用して CD 媒体からインストールすると、インストール後の手順で問題が発生する場合があります。X-windows ベースのインストールユーティリティーが制御を基本コンソールに戻し、ps コマンドに関するエラーメッセージを表示する場合があります。この状況が発生した場合は、キーボードの Ctrl-Alt-F7 キーを同時に押すことによって、制御を X-windows ベースのインストールユーティリティーに戻すことができます。この時点から、SLES 8 の通常のインストール後の設定を進めることができます。

単一の SCSI ハードディスクドライブを使用する場合は、ドライブを任意のスロットに挿入できます。2 つ以上のハードディスクドライブを使用する場合は、OS 起動セクターを含むドライブを、取り付け先スロットの中でもっとも番号の小さいスロットに取り付けます。

2.1.1 デュアルコアシステムでの SUSE のメモリー帯域幅のパフォーマンス

SLES9 を動作させるデュアルコアシステムで最大限のパフォーマンスを実現するには、SP1 以降の Service Pack をインストールしてください。これを行わない場合は、2005 年 3 月 21 日にリリースされた patch-9962 をインストールします。このパッチは次の Novell 社の Web サイトで入手可能です。

<http://support.novell.com/techcenter/search/search.do?cmd=displayKC&externalId=2558830537429cdedb543926fd6344a8html>

注 – SLES9 SP1 以降が動作するシステムに patch-9962 は必要ありません。

2.1.2 特定の Linux ソフトウェアでの変換索引バッファ (TLB) の再読み込みによるエラー

注 – Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 3.0 を使用している場合、この問題を最小限に抑えるために最新の OS アップデートをサーバーにインストールしてください。

「BIOS Advanced」メニューでは「No Spec.TLB Reload」というオプションがデフォルトで使用不可になっています。この設定により、変換索引バッファ (Translation Look-aside Buffer、TLB) の再読み込みが可能になります。

このデフォルト設定では、64 ビット版の Red Hat Linux および SUSE Linux Service Pack 1 が動作しているシステムで、次のようなエラーが発生しています。

```
Northbridge status a60000010005001b
GART error 11
Lost an northbridge error
NB status: unrecoverable
NB error address 0000000037ff07f8
Error uncorrected
```

このエラーを回避するには、TLB の再読み込みを無効にします。

1. サーバーを再起動し、F2 キーを押して BIOS 設定を起動します。
2. 「Advanced」>「Chipset Configuration BIOS」メニューに進みます。

3. 矢印キーを使用してオプション「No Spec.TLB reload」が表示されるまでスクロールダウンし、設定を「Disabled」から「Enabled」に変更します。

これによって TLB の再読み込みは無効になり、エラーメッセージが発生しなくなります。

2.1.3 デュアルコアの Sun Fire V40z に failsafe モードの SLES 9 (64 ビット) がインストールされない

現在、SUSE Linux Enterprise Server 9 (64 ビット) は、起動オプション `maxcpus=0` が指定された状態では動作しません。このオプションは、デュアルコアの Sun Fire V40z サーバーの failsafe モードのデフォルト設定です。

回避方法

BIOS の起動が終了したあとに、グラフィカルな起動画面に「Linux」、
「Floppy」、または「Failsafe」の 3 つのオプションが表示されます。

1. 「Failsafe」を選択します。
2. このオプションの下の小さいテキスト編集ボックスをクリックします。
3. 行の末尾までスクロールします。
4. テキストの「`maxcpus=0 3`」を「`maxcpus=3`」に変更します。
「3」という数字は削除しないでください。

2.1.4 NSV 2.4.0.6 を備えた Sun Fire V40z (シャーシ 380-1010) への RHEL4 FCS (32 ビット) のインストールには HPET の使用不可への切り替えが必要

NSV 2.4.0.6 を備えた Sun Fire V40z (シャーシ 380-1010) で、Red Hat Enterprise Linux 4 FCS (32 ビット) をインストールするには、BIOS で High Precision Event Timer (HPET) を使用不可にする必要があります。この変更は、RHEL4 Update 1 では必要ありません。

回避方法

BIOS で HPET を使用不可にするには、次の手順を実行します。

1. F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティを起動します。
2. 「Advanced」メニューで「HPET Timer」オプションを選択します。

3. 値を「Disabled」に変更します。
4. F10 キーを押して変更内容を保存します。

2.2 Solaris オペレーティングシステムに関する問題

このセクションでは、Sun Fire V20z サーバーおよび Sun Fire V40z サーバーで Solaris 9 オペレーティングシステムを使用する場合の問題および考慮事項について説明します。いずれの項目についても、その製品の Web サイトで機能拡張の予定があるかどうかを確認してください。

Solaris OS の最初の互換バージョンは、Sun Fire V20z サーバーの場合は Solaris 9 OS 4/04 以降、Sun Fire V40z サーバーの場合は Solaris 9 OS HW 4/04 です。ただし、次に示す特定の機能は、このサーバーの最初の製品リリース後に段階的に導入された可能性があります。

- RAID 機能は最初のリリースではサポートされていません。
- Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers Documentation and Support Files CD に収録されている ECC チェックドライバおよび IPMI サポート。
- オンボードのグラフィックサポートを必要とする Solaris インストールでは VESA ドライバを使用してください。モニターを使用する Solaris 9 OS 4/04 をインストールする際は、kdmconfig ユーティリティーを使用して「VESA Generic Driver for VESA Compatible Video Cards」を選択してください。
- USB マウスをサーバーに接続したときに問題が発生する場合があります。kdmconfig ユーティリティーが USB マウスを検出できず、ビデオが機能しない場合があります。この問題を回避するには、kdmconfig の「Pointing Device Selection」画面で USB マウスを手動で選択します。
- Solaris 起動ディスクは、SCSI スロット 0 に取り付ける必要があります。
- オペレーティングシステムの一部のディストリビューションは、CD-ROM ではなく DVD 媒体に収録されています。Sun Fire V20z サーバーの場合は、オプションの DVD-ROM/フロッピーディスクドライブ (X9260A) を入手して、DVD 媒体からソフトウェアをインストールすることをお勧めします。

注 – Sun Fire V40z サーバーのオプションは、DVD/フロッピーディスクドライブのみです。

- このサーバーには、オンボードの UHCI ハードウェアはありません。以前の Solaris x86 環境で (独自の USBA フレームワークを使用して) 動作するように記述された USB ドライバがデバイスを制御している場合は、次のいずれかが必要です。

- 既存のドライバを使用する、Sun 以外の UHCI ベースの USB PCI カード
- オンボードの OHCI ハードウェアとともに動作する USB A 1.0 ドライバ
- ネットワークインタフェース LED は、Solaris ソフトウェアの現在のビルドでは正しく機能しない場合がありますが、ネットワーク接続は完全に機能します。
- USB コンソールのキーボードでシステムを停止すると、メッセージ「Syncing file systems...done. Type any key to continue」が表示されたあとキーボードが使用不可になります。そのあと、サーバーの電源は安全に切ることができます。
- このサーバーに対応する Solaris x86 ソフトウェアのパッチが使用可能になったときには、次の Web サイトで最新版のパッチをダウンロードできます。

<http://www.sun.com/servers/entry/v20z/downloads.html>

<http://www.sun.com/servers/entry/v40z/downloads.html>

2.2.1 4G バイト DIMM が全ソケットに取り付けられているシステム上で GUI ベースの Solaris 10 1/06 OS のインストールが失敗する

64G バイトのメモリーが取り付けられている (すべてのソケットに 4G バイト DIMM が取り付けられている) Sun Fire V40z サーバー上では、Solaris 10 1/06 OS の GUI ベースのインストールが失敗します。

回避方法

コンソールテキストモードのインストールを実行すると、インストールは失敗しません。

2.2.2 Solaris 9 OS での 32G バイトのメモリーの上限

Solaris 9 OS は 32 ビット OS であり、メモリーの上限は 32G バイトです。32G バイトの物理メモリーのアドレス指定には、32 ビットのアドレス空間の大半を使用する必要があります。アプリケーションが十分な物理メモリーにアクセスできない場合があります。

回避方法

大容量の物理メモリーを必要とするアプリケーションを使用する場合は、Solaris 10 OS を実行することをお勧めします。

2.2.3 事前インストールされている Solaris 10 OS

Sun Fire V20z サーバーおよび Sun Fire V40z サーバーの一部のバージョンには、プリインストール版の Solaris 10 OS が付属します。

プリインストール版の Solaris 10 OS をサーバーから削除する場合は、単に任意のバージョンの Linux OS をインストールして上書きします。Linux のインストール処理中に、次の文字列で始まる警告メッセージが表示される場合があります。

```
Warning. Unable to align partition properly.
```

プリインストール版の Solaris 10 OS の不正なパーティションラベルによってこのメッセージが表示されますが、無視しても問題はありません。Linux のインストーラによってパーティションテーブルが変更されたあとに、このエラーは修正されます。

2.3 Sun Installation Assistant に関する問題

オペレーティングシステムは、サービスプロセッサやネットワーク共有ボリューム (Network Share Volume, NSV) ソフトウェアを設定することなく、サーバーにインストールできます。ただし、サービスプロセッサおよび NSV ソフトウェアの設定を省略した場合は、システムの遠隔管理機能や診断は使用できません。

2.3.1 Sun Installation Assistant CD-ROM

Sun Installation Assistant CD-ROM は、サポートされる Linux オペレーティングシステム (OS) をインストールする際に役立ちます。この CD-ROM には、品質保証テスト済みの一連の Sun サポートドライバが収録されています。Sun Installation Assistant CD を使用すると、オペレーティングシステム、適切なドライバ、および追加ソフトウェアをシステムにインストールできます。ドライバ更新用のフロッピーディスクを作成する必要はありません。

アクセサリキットには、Sun Installation Assistant for Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers CD-ROM が同梱されています。

この CD-ROM の .iso イメージは、次に示す製品の Web サイトからダウンロードできます。

<http://www.sun.com/servers/entry/v20z/downloads.html>

<http://www.sun.com/servers/entry/v40z/downloads.html>

注 – ダウンロード Web サイトにアクセスすることをお勧めします。Linux OS の追加バージョンをサポートするために Sun Installation Assistant が更新されると、更新後の .iso イメージがこのサイトに掲載されます。

Sun Installation Assistant CD-ROM の使用方法については、最新版の『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー—Linux オペレーティングシステムインストールマニュアル』の第 2 章を参照してください。

2.3.2 Sun Installation Assistant によってサポートされる Linux のバージョン

このマニュアルの発行時点で、Sun Installation Assistant によってサポートされている Linux OS のバージョンは次のとおりです。

表 2-1 Sun Installation Assistant によってサポートされる Linux OS のバージョン

Linux ディストリビューション	サポートされるバージョン	32 ビット 64 ビット
シングルコアシステム		
Red Hat Enterprise Linux 3、WS/ES/AS	Update 1 ~ 4	32 ビット
Red Hat Enterprise Linux 3、WS/AS	Update 1 ~ 4	64 ビット
Red Hat Enterprise Linux 4、WS/ES/AS		32 ビット
Red Hat Enterprise Linux 4、WS/ES/AS	Update 1	32 ビット、 64 ビット
SUSE Linux Enterprise Server 9 (SLES9)	SP 1、SP 2	64 ビット
SUSE Linux Enterprise Server 8	SP 3	64 ビット
デュアルコアシステム		
Red Hat Enterprise Linux 4、AS/ES/WS	Update 1	32 ビット、 64 ビット
SUSE Linux Enterprise Server 9 (SLES9)	SP 1、SP 2	64 ビット

2.3.3 Sun Installation Assistant と LVM の併用

Sun Installation Assistant は、Red Hat Enterprise Linux 3 および各アップデート、あるいは SUSE Linux Enterprise Server 8 または 9 および Service Pack での Logical Volume Manager (LVM) の使用をサポートしていません。ダウンロードサイトから入

手できる現在のリリースでは、Red Hat Enterprise Linux 4 と LVM の併用がサポートされています。今後のリリースでは、SUSE Linux Enterprise Server 9 および Service Pack と LVM の併用がサポートされます。

2.3.4 プラットフォームドライバ

プラットフォームドライバをインストールしない場合に、修正可能な ECC エラーが発生すると、最新の ECC 障害のエラーメッセージが重複して繰り返し報告されません。

この問題を回避するには、適切なレベルのプラットフォームドライバをサーバーにインストールします。詳細は、『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー設置マニュアル』を参照してください。

2.3.5 LSI ドライバ

注 – この問題は、NSV 2.2.0.6h 以降のリリースに含まれている BIOS アップデートでは解決されています。

SUSE Linux Professional 9.0 または SUSE Linux Enterprise Server 8 (SLES8) OS をサーバーにインストールしており、LSI ドライバ version 2.05.11 およびファームウェア version 1.03.15 が動作している場合、内蔵ハードディスクドライブ (HDD) でパフォーマンスの問題が発生する可能性があります。

LSI ドライバ version 2.05.16 およびファームウェア version 1.03.23 に更新することをお勧めします。これらのバージョンのドライバおよびファームウェアは、サポートされるすべてのオペレーティングシステムで使用できます。

2.3.6 フロッピーディスクへのアクセス中の OpenIPMI Linux カーネルドライバの衝突

注 – この問題は、NSV version 2.2.0.6h 以降では解決されています。

サーバーで帯域内 IPMI 機能を使用する場合は、フロッピーディスクにアクセスする前に OpenIPMI Linux カーネルドライバを読み込み解除する必要があります。フロッピーディスクにアクセスする前に OpenIPMI Linux カーネルドライバを読み込み解除しないと、OpenIPMI Linux カーネルドライバによって処理されるフロッピーディスクへの書き込みデータおよび管理データが破壊されます。

1. OpenIPMI Linux カーネルドライバを読み込み解除するには、`root` の権限で、次のコマンドを入力します。

```
$ rmmmod ipmi_kcs_drv
$ rmmmod ipmi_devintf
$ rmmmod ipmi_msghandler
```

2. フロッピーディスクへのアクセスが完了したら、次のコマンドを入力して帯域内 IPMI 機能を復元します。

```
$ modprobe ipmi_devintf
$ modprobe ipmi_kcs_drv
```

2.4 診断に関する問題

最新版の `diags` には複数のバグ修正が含まれています。これは、次の Web サイトで入手可能です。

<http://www.sun.com/downloads>

<http://www.sun.com/servers/entry/v20z/support.jsp>

<http://www.sun.com/servers/entry/v40z/support.jsp>

2.4.1 パケットの破損によって診断のダウンロードが失敗する可能性がある

診断のダウンロード時にパケットの破損が発生する場合があります。パケットの破損が発生すると、プラットフォーム側の `diags` は実行されません。この問題を解決するには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを入力してすべての診断を停止します。

```
$ diags terminate
```

2. 次のコマンドを入力してサーバーの電源が切断されていることを確認します。

```
$ platform get power state
```

3. 次のコマンドを入力して診断を開始します。

```
$ diags start
```

4. 次のコマンドを入力して diags の状態を繰り返し確認します。

```
$ diags get state
```

問題が解決しない場合、ご購入先に問い合わせてください。

2.4.2 diags のファンテスト

diags コマンドの起動後にプラットフォームの状態が変化した場合、ファンテストによってその状態が検出されない可能性があります。ファンテストは、プラットフォームの電源の状態に依存します。diags start -n を使用してサービスプロセッサベースのプラットフォームモード以外のモードを実行する場合、診断を読み込む前に、必要なプラットフォームの状態を設定してください。

2.4.3 diags の SSH 接続および nic テスト

retention.allDimms テストが実行されると、ユーザーはプラットフォームとの SSH 接続を失う場合があります。診断の実行は継続されますが、ユーザーは接続が失われたあとにプラットフォームに対して SSH 接続を実行することはできません。この問題を回避するには、SSH 接続を使用している場合に nic テストを実行しないでください。

2.4.4 ファームウェアのダウングレード

通常、マシンに付属するバージョンより前のバージョンのファームウェアにダウングレードすることは、サポートされていません。

2.4.5 sp snmp community コマンド

NSV release 2.4.0.6 以降では、次の SP コマンドがサポートされます。

- sp set snmp community
- sp get snmp community

2.4.5.1 sp set snmp community

このコマンドを使用すると、サービスプロセッサ (SP) 自体によって使用されるコミュニティ名を設定できます。これに対し、SP とプラットフォーム間で使用されるプロキシコミュニティ文字列は設定できません。

コミュニティ文字列の長さには制限はありません。通常使用される名前は、「private」および「public」です。コミュニティ文字列の出荷時のデフォルト名は「public」であるため、値を設定する前に `sp get snmp community` コマンドを実行すると、「public」が返されます。値には、スペースを含まない任意の文字列を設定します。
次に例を示します。

```
$ sp set snmp community COMMUNITY_STRING
```

次に正常な出力を示します。

```
localhost# sp set snmp community private
```

2.4.5.2 sp get snmp community

このコマンドは、現在サービスプロセッサによって使用されているコミュニティ名を返します。たとえば、次のコマンドを入力します。

```
$ sp get snmp community
```

次に正常な出力を示します。

```
localhost# sp get snmp community public
```

2.4.5.3 inventory get software コマンドで誤ったインストール日付が返される

ユーザーが `inventory get software` コマンドを入力したときに、最新バージョンのサーバー診断ソフトウェアに関して、まれに誤った日付が表示されます。この問題は、製品の機能やパフォーマンスには影響しないため、安心して無視できます。

次に例を示します。

```
$ inventory get software
Name                Revision    Install Date                Description
Diagnostics         V2.3.0.9   Thu Feb 17 19:17:16 1938 Server Diagnostics
BIOS-V20z          V1.33.5.2  Mon Jun 06 14:00:11 2005 Platform BIOS for V20z
servers
Operator Panel     V1.0.1.2   Mon Jun 06 13:43:06 2005 Operator Panel Firmware
PPCBoot            V2.3.0.1   Fri Apr 01 08:19:53 2005 PPCBoot Software
SP Value-Add       V2.3.0.11  Mon May 16 14:36:32 2005 SP Value-Add Software
SP Base            V2.3.0.11  Mon May 16 14:36:32 2005 SP Base Software
$
```

回避方法

サーバー診断ソフトウェアの正しいインストール日付を表示する必要がある場合は、次のコマンドシーケンスを実行してください。

1. 次のように入力して SP のデフォルト設定に戻します。

```
$ sp reset to default-settings -a
```

2. SP が再起動するのを待ち、SP の IP アドレスに接続して、マネージャーアカウントを作成します。

```
$ ssh -l setup IP-ADDRESS
```

IP-ADDRESS は、SP がオンラインに戻るときの IP アドレスです。

3. プロンプトに従って、マネージャーアカウントを作成します。
4. 作成したばかりのマネージャーアカウントにログインします。
5. 目的のサーバー診断ソフトウェアが含まれている SP をマウントします。
6. インストールされたソフトウェアの最新更新日が表示されることを確認します。

```
$ inventory get software
```

これで、最新バージョンのソフトウェアの正しいインストール日付が表示されます。

マネージャーアカウントの作成または SP のマウントの詳細は、『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー設置マニュアル』を参照してください。

2.4.6 診断読み込み中の SP へのアクセスの禁止

注 – この問題は、NSV version 2.1.0.16 以前で発生します。NSV 2.2.0.6 以降のバージョンでは、この問題は解決されています。

サーバーで診断を実行している間は、コマンド行インタフェースや IPMI を介して、サービスプロセッサ (SP) と対話しないでください。

診断の実行中は、センサーコマンドの信頼性が低下します。診断の読み込み中にセンサーコマンドを実行すると、誤った結果になったり、間違った重大イベントがイベントログに記録されたりする場合があります。この場合、センサーが返す値は信頼できるものではありません。

2.4.7 diags terminate コマンドによる「誤った」重大イベントの生成

注 – この問題は、NSV version 2.1.0.16 以前で発生します。NSV 2.2.0.6 以降のバージョンでは、この問題は解決されています。

診断を終了すると、センサーおよびシステムのエラーを示す重大イベントが生成されます。診断が終了し、diags terminate コマンドによって自動的にプラットフォームの電源が切断されたあと、イベントログからこれらのイベントを消去して、実際の重大イベントと間違えないようにすることをお勧めします。

Sun Fire V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバーに付属する診断機能は、ユーザーが画面を監視するか、ファイルに出力を保存することを想定して設計されています。

表 2-2 および表 2-3 に、SP コマンド sp get events が生成する出力の例を示します。この例は、サーバー上でコマンド diags terminate を実行した際に生成されるイベントを示しています。この例の「Critical」エラーは、すべて無視できます。

表 2-2 Sun Fire V20z サーバーのイベントログ例

ID	Last Update	Component	Severity	Message
50	11/04/2004 16:49	Platform	informational	The platform has been powered off
51	11/04/2004 16:49	planar	critical	Sensor CPU VDDA voltage reports 0.00 Volts but should be between 2.25 and 2.75 Volts

表 2-2 Sun Fire V20z サーバーのイベントログ例

52	11/04/2004 16:49	ps	critical	Sensor Bulk 12v supply voltage (cpu0) reports 1.33 Volts but should be between 10.20 and 13.80 Volts
53	11/04/2004 16:49	cpu0.vrm	informational	Sensor CPU 0 core voltage reports 0.76 Volts and has returned to normal
54	11/04/2004 16:49	cpu0.memvrm	critical	Sensor CPU 0 VDDIO voltage reports 0.00 Volts but should be between 2.25 and 2.75 Volts
55	11/04/2004 16:49	cpu1.vrm	informational	Sensor CPU 1 core voltage reports 0.76 Volts and has returned to normal
56	11/04/2004 16:49	cpu1.memvrm	critical	Sensor CPU 1 VDDIO voltage reports 0.00 Volts but should be between 2.25 and 2.75 Volts

<Log file continues...>

表 2-3 Sun Fire V40z サーバーのイベントログ例

ID	Last Update	Component	Severity	Message
1	11/04/2004 14:31	ps1	informational	Power supply 1 has resumed normal operation
2	11/04/2004 14:31	ps2	informational	Power supply 2 has resumed normal operation
3	11/04/2004 15:03	planar	critical	Sensor Bulk 1.8V S0 voltage reports 0.00 Volts but should be between 1.62 and 1.98 Volts
4	11/04/2004 15:03	cpuplanar	critical	Sensor CPU 2 VDDA (2.5V) S0 voltage reports 0.00 Volts but should be between 2.25 and 2.75 Volts
5	11/04/2004 15:03	ps1	critical	Sensor Bulk 12V S0 voltage at CPU 0 reports 0.01 Volts but should be between 10.20 and 13.80 Volts
6	11/04/2004 15:03	ps2	critical	Sensor Bulk 12V S0 voltage at CPU 0 reports 0.01 Volts but should be between 10.20 and 13.80 Volts

表 2-3 Sun Fire V40z サーバーのイベントログ例 (続き)

7	11/04/2004 15:03	fan5	critical	Sensor Fan 5 measured speed reports 60 RPM but should be greater than 2000 RPM
8	11/04/2004 15:03	fan6	critical	Sensor Fan 6 measured speed reports 60 RPM but should be greater than 2000 RPM

<Log file continues...>

回避方法

次に、イベントログから誤った重大イベントを消去する回避方法の手順を示します。

注 – すべての SP コマンドの一覧については、『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー—サーバー管理マニュアル』を参照してください。

1. 診断を実行する前に、SP イベントログを消去します。
2. 診断を起動します。
診断が起動するまで待機します。
3. 診断テストのいずれか、またはすべてを実行します。
4. SP イベントログでエラーがあるかどうかを確認します。
イベントログは、将来の調査のために、別の場所に保存できます。
5. コマンド **diags terminate** を実行して、診断を終了します。
6. SP イベントログを消去します。
この手順によって、前の手順で生成された、誤った重大イベントがすべて削除されます。

注 – イベントログの消去の詳細を表示するには、次のコマンドを入力します。
`sp delete event --help`

2.4.8 その他の診断に関する問題

- レガシー USB を有効にすると、診断 x86-64 カーネルがハングアップします。この問題を回避するには、診断モードではレガシー USB を無効にします。
- NIC テストを実行したあと、bcm5700 デバイスが解放されません。これによって、NIC テストを再実行できなくなります。

- プラットフォームで診断を起動すると、フロッピーディスクドライブのマウントが試行されます。そのため、次のエラーが返ります。

```
mount : Mounting /dev/fd0 on /mnt/floppy failed. No such device.
```

このエラーメッセージは、無視しても問題ありません。

注 – フロッピーディスクドライブの問題は、NSV 2.2.0.6h 以降のリリースに含まれている診断では解決されています。

第3章

バージョン別の NSV (SP および BIOS) の変更点

この章では、NSV の最新のメジャーバージョンの機能、既知の問題、および回避方法を示します。

- 3-1 ページの 3.1 節 「NSV Release 2.4.0.12」
- 3-3 ページの 3.2 節 「NSV Release 2.4.0.8」
- 3-4 ページの 3.3 節 「NSV Release 2.4.0.6」
- 3-7 ページの 3.4 節 「NSV Release 2.3.0.11c および 2.3.0.11」

3.1 NSV Release 2.4.0.12

3.1.1 新機能

NSV 2.4.0.12 に含まれるハードウェア機能およびソフトウェア機能を次に示します。

表 3-1 NSV 2.4.0.12 コンポーネント

コンポーネント	変更または追加
RoHS 5 準拠	BIOS での RoHS 準拠の Sun Fire V40z サーバーのサポート
Red Hat Enterprise Linux 3	Update 7、2.4 カーネル (32 ビットと 64 ビット) のサポート
Red Hat Enterprise Linux 4	Update 3、2.6 カーネル (32 ビットと 64 ビット) のサポート
SUSE Linux Enterprise Server 9	SP3、2.6 カーネル (64 ビット) のサポート

表 3-1 NSV 2.4.0.12 コンポーネント (続き)

コンポーネント	変更または追加
AMD Opteron プロセッサのサポート	Sun Fire V40z サーバー: <ul style="list-style-type: none"> • AMD Opteron 856、E-4 • AMD Opteron 885、E-6
NSV	Version 2.4.0.12
2100 (V20z) プラットフォームの BIOS	Version 1.35.2.2
4300 (V40z) プラットフォームの BIOS	Version 2.35.2.2
SP 基本ソフトウェア	Version 2.4.0.10
診断ソフトウェア	Version 2.4.0.6

3.1.2 解決された問題

NSV 2.4.0.12 で解決された既知の問題を次に示します。

表 3-2 NSV 2.4.0.12 で解決された問題

コンポーネント	問題
ソフトウェア	ノード 0 の DIMM が低速であるため、初期化が完了せずにマルチビット ECC エラーが発生する
ドライバ: TDU	tdulog 命名規則が version 2.3.0.11 で変更された。これは version 2.4.0.12 で修正されている。
BIOS	DIMM に障害が発生した場合に、CD 診断が散発的に再起動する。
BIOS	BMC (PIP) の応答が停止した場合、IPMI KCS コードがハングアップする可能性がある。KCS スタックでのタイムアウト処理または障害処理のプロビジョニングが不十分であった。これは通常、POST コード D9 のハングアップとして検出されていた。
BIOS	起動イメージが eth0 に接続されているネットワーク上に存在する場合にのみ、BIOS に PXE ブートを指示するコマンドが動作する。イメージの利用に eth1 を使用すると、サーバーはローカルディスクから起動する。

3.2 NSV Release 2.4.0.8

3.2.1 新機能

このリリースのソフトウェア機能を次に示します。

- Red Hat Enterprise Linux 3、Update 5 (32 ビットと 64 ビット) のサポート
- Red Hat Enterprise Linux 3、Update 6 (32 ビットと 64 ビット) のサポート
- ネットワーク共有ボリューム (NSV) 2.4.0.8。表 3-3 に示す更新済みコンポーネントを含みます。

表 3-3 NSV 2.4.0.8 コンポーネント

コンポーネント	変更
2100 (V20z) プラットフォームの BIOS	Version 1.34.6.2
4300 (V40z) プラットフォームの BIOS	Version 2.34.6.2
SP 基本ソフトウェア	Version 2.4.0.8
診断ソフトウェア	Version 2.4.0.4
V20z の 2100 PRS	Version 102
V40z の 4300 PRS	Version 18

3.2.2 解決された問題

表 3-4 に、NSV release 2.4.0.8 で解決された問題を示します。

表 3-4 NSV 2.4.0.8 で解決された問題

コンポーネント	問題
BIOS	1 枚以上の Endace DAG 4.3GE カードを使用して Sun Fire V40z サーバーを構成している場合は、NSV 2.4.0.8 に更新する必要がある。
BIOS	V40z オンボード LSI 1020/1030 コントローラ用の適切な NVData イメージを配信する。
診断	ドーターカードが搭載されていない場合、一部の V40z (バージョン E) Super FRU がプラットフォーム診断の読み込みに失敗する。

表 3-4 NSV 2.4.0.8 で解決された問題 (続き)

コンポーネント	問題
サービスプロセッサ	ソフトウェアインベントリが誤って「factory installed」を報告する。
診断	メモリー診断で不正な構成が報告されることや、障害がある DIMM を特定できないことがある。
サービスプロセッサ	SP-SP-MIB::spPort80 の MIB エントリの値が常に 0 になる。適切な値を使用可能にする。
BIOS	LSI 53C1020-B2 Device Errata Listing 865 の項目 10 に対処するために、PCI 構成スペースで最大未処理分割トランザクション (MOST) を 1 に設定する。

3.3 NSV Release 2.4.0.6

BIOS v1.34.4.2 (Sun Fire V20z サーバー)、BIOS v2.34.4.2 (Sun Fire V40z サーバー)、およびサービスプロセッサ (SP) のファームウェア v2.4.0.6 に含まれる機能と修正を、一覧に次に示します。

3.3.1 NSV 2.4.0.6 の機能

■ AMD PowerNow! テクノロジ

Release 2.4 は、消費電力最適化機能 (Optimized Power Management、OPM) を持つ AMD PowerNow! テクノロジが実装された AMD Opteron プロセッサに対応しています。消費電力最適化機能を使用すると、IT およびワークステーションユーザーは、負荷に応じてパフォーマンスを最適化することにより、全体の消費電力を低減できます。また、データセンターの冷却システムおよび通気システムへの負担を低減することで、要件が厳しいエンタープライズサーバー環境でのプラットフォーム資産の保護に役立ちます。

■ PCI/PCIX ホットプラグの有効化/無効化

この新しいオプションが BIOS 構成の「Advanced」メニューに追加されました。Enabled に設定すると、ホットプラグ PCIX スロット用にリソースが予約されます。Disabled に設定すると、起動時に取り付けられていたカードのみにリソースが割り当てられます。このオプションは Sun Fire V40z サーバーにのみ適用されます。デフォルトの設定は Disabled です。

■ CMOS Save-Restore

Release 2.4 には、起動順序、日時などに関して行なった CMOS 設定の変更を保存する CMOS Save-Restore 機能が含まれています。CMOS が破壊された場合、デフォルト設定ではなく保存された設定が復元されます。

3.3.2 NSV 2.4.0.6 で解決された問題

表 3-5 に、NSV 2.4.0.6 release で解決された問題の一覧を示します。

表 3-5 NSV 2.4.0.6 で解決された問題

コンポーネント	問題
システム管理: IPMI	ICTS SDR/センサーのテストで、次のように動作する。 1. IPMI_ILLEGAL_COMMAND_FOR_SENSOR ではなく、読み込み不可のセンサーにデータが存在しないことを示すデータを返す。 2. 存在しないセンサーに対して要求が実行された場合、IPMI_SENSOR_DATA_NOT_PRESENT ではなく IPMI_ILLEGAL_COMMAND_FOR_SENSOR を返す。
システム管理: SM コマンド	コミュニティー文字列を設定するコマンドが、不正なヘルプメッセージを表示する。
システム管理: SM コマンド	ipmi get sel コマンドは、メーカー ID を認識し、ほかのデータと一貫性のある SEL レコードタイプを表示するべきである。
システム管理: IPMI	Node Busy メッセージが、set コマンドの実行後および実行中に返されない。
システム管理: SNMP	SNMP MIB で、SP インベントリのインストール日付に「Uninstalled」と表示される。
システム管理: SM コマンド	ipmi get sel コマンドは、時刻に変換する前にタイムスタンプを分析するべきである。
システム管理: SM コマンド	ipmi get sel コマンドで、一部の sel エントリが適切に表示されない。
システム管理	同じ IP アドレスの DHCP 設定を変更できない。
システム管理: SM コマンド	OS が「オン」状態の場合、platform update bios コマンドの強制オプションをサポートする。
システム管理: IPMI	set/get システム情報コマンドを追加する。
システム管理: IPMI	ipmi でサポートされる暗号化方式群の仕様を明確にするべきである。
システム管理: IPMI	get sel info コマンドから返される日付「最新の追加タイムスタンプ」および「最新の削除タイムスタンプ」が、SP の再起動後に保持されない。

表 3-5 NSV 2.4.0.6 で解決された問題 (続き)

コンポーネント	問題
システム管理: 操作パネル実行	SP の起動時に、SP が DHCP 用に構成済みでも、ネットワークに接続されていないかネットワークが機能していない場合、Opexec がタイムアウトし、ネットワーク接続が DHCP モードにリセットされると、SP が使用できなくなる。
システム管理	SNMP コミュニティ文字列を変更する sp コマンドを追加する。sp snmp set/get community string コマンドが追加された。
システム管理: SM コマンド	/pstore の空き領域がほぼなくなっている場合に、イベント警告に「Error persisting user information. It is likely that the persistent filesystem is full.」と表示されても、access add trust SM コマンドが障害を示さない。
システム管理: 操作パネル	操作パネルのサーバーメニューを逆方向に進めると、再起動オプションが表示されない。

3.3.3 NSV 2.4.0.6 の既知の問題

3.3.3.1 HPET タイマーをオフにするとシステムクロックのずれが生じる

HPET タイマーをオフにすると、システムクロックがずれる場合があります。タイマーの時間がずれると、カーネルおよびユーザーアプリケーションでタイミングエラーが発生する可能性があります。症状としては、タイマーが早くタイムアウトしたり、時刻を示すクロックの動作が不規則になったりする場合があります。SMP カーネルで PowerNow! 機能を使用する場合は、HPET タイマーを有効にしておく必要があります。

3.3.3.2 システムファームウェア進捗 SEL エントリに関して BIOS で誤ったセンサー番号が使用される

システムファームウェア進捗 SEL エントリの生成時には、BIOS は正しいセンサー番号を使用しません。システム起動時に、キーボードエラーやフロッピーディスクエラーなどの特定のエラーが発生すると、システム BIOS はシステムファームウェア進捗 SEL エントリを生成し、サービスプロセッサに送信します。現在、この SEL エントリの作成時に、BIOS はセンサー番号 0x00 を誤って使用しています。

3.3.3.3 BIOS の更新の失敗

BIOS の更新が、ファイルの転送エラーのために失敗する場合があります。このような場合は、更新を再試行してください。

3.4 NSV Release 2.3.0.11c および 2.3.0.11

BIOS v1.33.7.2 (Sun Fire V20z サーバー)、BIOS v2.33.7.2 (Sun Fire V40z サーバー)、およびサービスプロセッサ (SP) のファームウェア v2.3.0.15 の機能と修正の一部を、次に示します。

3.4.1 NSV 2.3.0.11c の既知の問題

3.4.1.1 tduolog コマンドが CPU レジスタのログファイルを生成しない

現在のリリースでは、tduolog コマンドを実行しても、要求した CPU レジスタの情報に関して読み取り可能なテキストファイルは生成されません。この問題は、次の製品リリースで解決されます。

3.4.1.2 システムが NSV のマウントを解除しない

まれに、NSV のマウントを解除できない場合があります。NSV のマウントを解除するには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを入力します。
2. SP が再起動してオンラインに戻るのを待ちます。
3. 次のコマンドを入力します。

```
ssh
sp delete mount
```

NSV のマウントが解除されるはずですが。

3.4.2 NSV 2.3.0.11 で解決された問題

表 3-6 に、BIOS v1.33.5.2 (Sun Fire V20z サーバー)、BIOS v2.33.5.2 (Sun Fire V40z サーバー)、およびサービスプロセッサ (SP) のファームウェア v2.3.0.11 での修正の一覧を示します。

表 3-6 NSV 2.3.0.11 で解決された問題

コンポーネント	問題
システム管理	IPMI 2.0. 機能はリストをサポートする。
システム管理: IPMI	サービスプロセッサが再起動したあと、SEL エントリが失われる。
システム管理: インストール	プラットフォームドライバの情報で、「source」という語が複数回繰り返される。
システム管理: イベントマネージャー	先に発生した重大イベントで、クリアされていないものがある場合、2.2.0.18 では Power Supply イベントが記録されない。
システム管理: SM コンソール	「System Status」画面のコンポーネントのプルダウンメニューに、無関係なコンポーネントが表示される。
システム管理: SM コンソール	IE および Sun JRE 1.5.0_02 を使用して、SM イベントの構文の警告が頻繁に表示される。
システム管理: SM コンソール、セキュリティ	UI によって、ユーザー名とパスワードが暗号化されずに cookie に保存される。
システム管理: IPMI	SP の IP アドレスが、静的 IP の設定とともに変更される。
システム管理: IPMI	アクセス不可のユーザー特権が、IPMI の仕様で指定されている特権の範囲を超えている。
システム管理: SM コマンド	sp reset コマンドに必要なパラメータ sp reset to default-settings を指定せずに実行すると、SP が 60、40、および 20 秒以内に再起動されることを知らせるメッセージが表示される。
Sun 以外のソフトウェア	AMD ドライバを、64 ビット用の Windows Driver Pack のドライバで更新する。
BIOS	Hammer の Errata 122 に対する回避方法を提供済み。
システム管理: IPMI	管理者以外のユーザー用のセッションを管理者用に設定すると、LAN および LANplus のインタフェースが干渉を受ける。
システム管理: SM コマンド	「platform set os state boot」のヘルプテキストに誤字がある。
システム管理	起動時に電源正常信号の障害イベントが発生する。
システム管理	オフラインイベントビューアの堅牢性が不十分。
OS: プラットフォーム OS: SUSE	SLES9 (32 ビットと 64 ビットの両方の OS) サポートが追加される。
システム管理: インベントリ	PIC ファームウェアのバージョンを確認できない。
システム管理: インベントリ	inventory get software によって、「Unknown Error」が返される。

表 3-6 NSV 2.3.0.11 で解決された問題 (続き)

コンポーネント	問題
システム管理: SM コマンド	inventory compare versions から何も情報が返されない。
システム管理: 操作パネル実行	opexec コマンドによって、無効なエラーが表示される場合がある。
システム管理: MCP	CPU のサーマルトリップが発生しても、障害ライトが点灯しない。
システム管理: IPMI	get channel cipher suites の、サポートされるアルゴリズムの報告にエラーがある。
システム管理: 更新サーバー	オンライン (Windows または Linux) での sp full、val-add、bios アップデートのサポートに問題がある。
システム管理: 自動構成	sp autoconfigure コマンドで、公開鍵を持たないユーザーに対して長さが 0 の公開鍵が作成される。
システム管理: MCP	S1/S2 と S2/S1 の組み合わせの CPU カードは無効。 380-1010 および 380-1206 と 380-1206 および 380-1010 の組み合わせが無効である可能性がある。
システム管理: IPMI	rmcp+ メッセージング暗号化方式群の特権レベルのパラメータがサポートされるべきである。
BIOS	1 個の CPU に対する 4 個の DIMM で、デュアルランク DDR400 がサポートされる。
BIOS	スロット 5 に 10 ギガビット Ethernet カードを取り付けると、システムが再起動する。
BIOS	High Performance Vent Timer (HPET) を使用可能にする。
システム管理: SM コマンド	RFE、遠隔 PXE ブート。
BIOS	1 個の CPU に対して 6G バイトの DDR 400 メモリーを使用した場合、以前は DDR 333 速度で実行されていたが、現在は DDR 400 速度で実行される。

3.4.3 NSV 2.3.0.11 の既知の問題

3.4.3.1 BIOS の更新が失敗する

PRS が破壊されたシステムでは、BIOS の更新は失敗します。BIOS の更新が正常に終了した場合、次のメッセージが表示されます。

```
This command may take several minutes.Please be patient.
Bios started
Bios Flash Transmit Started
Bios Flash Transmit Complete
Bios Flash update Progress: 7
Bios Flash update Progress: 6
Bios Flash update Progress: 5
Bios Flash update Progress: 4
Bios Flash update Progress: 3
Bios Flash update Progress: 2
Bios Flash update Progress: 1
Bios Flash update complete
```

このメッセージが最後まで表示されなかった場合は、再度 BIOS を更新します。

3.4.3.2 操作パネルと PPCBoot の更新は不要

操作パネル V1.0.1.1 および PPCBoot V2.1.0.16 を使用している場合は、これらのバージョンを更新して、現在の NSV に組み込まれているバージョンに一致させる必要はありません。これらのバージョンは正しく動作するため、より新しいバージョンに更新するためのツールは提供されていません。

3.4.3.3 キーボードが取り付けられていないシステムに対して BIOS でキーボードエラーが記録される

Sun Fire V20z または Sun Fire V40z にキーボードを取り付けていない場合、BIOS によってシステムイベントログにキーボードエラーが記録されます。

```
*      Keyboard Failure. Logged when BIOS detects a POST failure with an
attached keyboard.                               Sensor Type Code:      0x0F
```

このメッセージは情報であり、問題を示しているものではありません。

第4章

マニュアルに関する問題

この章では、次の内容について説明します。

- 4-1 ページの 4.1 節「SP および BIOS の更新手順」
- 4-1 ページの 4.2 節「設定作業用のポスター」
- 4-3 ページの 4.3 節「マニュアル」

4.1 SP および BIOS の更新手順

SP および BIOS の更新手順は、製品の Web サイトから HTML および PDF 形式で入手できます。次の Web サイトの『Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers—SP and BIOS Update ReadMe』を参照してください。

<http://jp.sun.com/documentation/>

4.2 設定作業用のポスター

設定手順のポスターには次のような問題があります。

4.2.1 ケーブル

Sun Fire V20z サーバーおよび Sun Fire V40z サーバーの両方のポスターで、PS/2 マウスコネクタと PS/2 キーボードコネクタを強調表示する拡大図に、マウスとキーボード用に Y ケーブルが示されていますが、これは誤りです。正しくは、標準 PS/2 ケーブルを使用します。

4.2.2 CD-ROM

- シャーシのパーツ番号が 380-1378 の Sun Fire V40z サーバーに付属している CD-ROM にはマニュアルが収録されていません。マニュアルをダウンロードする場合の URL については、xi ページの「関連マニュアル」を参照してください。
- 設定手順のポスターには、サーバーに付属する数枚の CD-ROM が示されています。使用しているシステムに付属のアクセサリキットには、3 枚または 4 枚の CD-ROM が同梱されています。

どちらのサーバーにも、次の CD-ROM が付属します。

- 「Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers—Network Share Volume」

購入したサーバーのバージョンに応じて、アクセサリキットに次の CD-ROM も同梱されています。

- 「Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers—Documentation and Support Files」(シャーシのパーツ番号が 380-1378 の Sun Fire V40z サーバーに付属する CD-ROM にはマニュアルが収録されていない)。
- 「Sun Installation Assistant for Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers」
- 「Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers—Bootable Diagnostics CD」

製品の Web サイトからの CD-ROM の .iso イメージのダウンロードについては、xi ページの「関連マニュアル」を参照してください。

- Sun Installation Assistant CD-ROM の使用方法については、『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー—Linux オペレーティングシステムインストールマニュアル』を参照してください。
- Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers—Bootable Diagnostics CD-ROM の使用方法については、『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー—診断用起動 CD マニュアル』を参照してください。

4.2.2.1 Sun Fire V20z サーバー

ポスターの **Part No.: 817-5336-10 (01-2004)**

1. このポスターの Contents セクションに電源コードが表示されています。しかし、現在では、電源コードは Sun Fire V20z サーバーのどの構成にも付属していません。
2. Sun Fire V20z サーバーの更新リリース (シャーシの PN 380-1168 および 380-1194) のアクセサリキットには、Solaris OS 更新パッケージが付属します。このパッケージには、Solaris 9 OS Install-Time Update (ITU) フロッピーディスクと簡単なインストールマニュアルが含まれています。

4.2.2.2 Sun Fire V40z サーバー

ポスターの **Part No.: 817-5337-10 (05-2004)**

1. このポスターの Contents セクションに電源コードが表示されていますが、これは誤りです。Sun Fire V40z サーバーには、電源コードは付属していません。
2. Sun Fire V40z サーバーの更新リリース (シャーシの PN 380-1206) のアクセサリキットには、Solaris OS 更新パッケージが付属します。このパッケージには、Solaris 9 OS ITU フロッピーディスクと簡単なインストールマニュアルが含まれています。

ポスターの **Part No.: 817-5337-11 (09-2004)**

このポスターでは、SP ポートコネクタごとに Ethernet 「クロス」 ケーブルと示されています。Ethernet クロスケーブルは、2 つの異なる Sun Fire V20z サーバーまたは Sun Fire V40z サーバーの SP コネクタをダイジーチェーンで接続する場合にのみ使用します。それ以外の場合は、通常の Ethernet ケーブルを使用して SP ポートをスイッチなどのネットワークデバイスに接続してください。詳細は、『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー—設置マニュアル』を参照してください。

4.3 マニュアル

『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバー—ユーザーマニュアル』

一部のバージョンのユーザーマニュアルには、誤った「BIOS Boot」メニューオプションが示されています。表 2-6 に、「BIOS Boot」メニューで使用可能な正しいオプションを示します。

表 4-1 「BIOS Boot」メニュー

メニューオプション	説明	デフォルトの起動順序
Removable Devices (Floppy)	フロッピーディスクドライブから起動	1 番めの起動デバイス
CD-ROM Drive	CD/DVD-ROM から起動	2 番めの起動デバイス
Hard Drive	ハードディスクから起動	3 番めの起動デバイス
Network Boot	ネットワーク上のデバイスから起動	ネットワーク上の起動デバイス
MBA v7.0.x Slot 0210	オンボード NIC #1 (eth0) から起動	4 番めの起動デバイス
MBA v7.0.x Slot 0211	オンボード NIC #2 (eth1) から起動	5 番めの起動デバイス

